

外国語活動（英語活動）の実践

守谷市立大井沢小学校

1 はじめに

大井沢小学校では研究テーマを「意欲的に学習に取り組み『分かる喜び』を味わう児童の育成」とし、ユニバーサルデザインと合理的配慮を取り入れた授業づくりを通して、すべての児童が「分かる喜び」を味わい、意欲的に学習に取り組み、確かな学力を身につけられるよう工夫改善を図っている。外国語活動に関するアンケート調査から、本校保護者の多くが小学校1年時からの英語活動実施を好ましいと考えており、歌やゲームなどの楽しい活動を通して英語の力を向上させることを望んでいることが分かる。

本校では外国語活動（英語活動）の時間において児童が自ら表現する活動を重視し、すべての児童が積極的に参加できるように活動内容の精選を図った。身に付けた表現や単語を繰り返し、変化を加えながら使うことで定着を図るとともに、児童に身近な題材を取り上げることで表現活動への意欲を高めている。

2 具体的な実践事例

(1) 特例校としての取組

〈低学年〉

「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせる」という生活科の目標に迫れるよう、自分自身のことを英語で表現する活動を多く取り入れた。特に” I like ~.” や” I’ m ~(happy,hungry 等) .” を用いて自分の好きな食べ物、形、色、気持ちを表現する活動に重点を置いた。

〈中学年〉

社会科や総合的な学習の時間で行っている地域に関連した調べ学習と関連させ、公共の施設や建物の名称を用いたり、建物探し、道案内をしたりするアクティビティを取り入れた。特に守谷市を初めて訪れた外国の方に道を尋ねられたらどのように案内するという状況を設定することで児童は課題を身近にとらえ、意欲的に活動に取り組んだ。

(2) 小中一貫教育の視点を意識した取組

〈高学年〉

11月下旬に乗り入れ授業を実施した。御所ヶ丘中学校の英語担当の先生が来校し、本校の職員と6年児童を対象に外国語活動を行うことによって中学校の英語学習への意欲をもたせることをねらいとした。また、普段の授業であまり扱わないアルファベットを題材とすることで、文字を介した学習へのスムーズな移行ができるようにした。

中学校と小学校の教諭と一緒に乗り入れ授業を行うことによって相互理解を図り、今後の情報交換を密に行うことができる考える。



乗り入れ授業の様子

3 学校独自のアプローチ

(1) 朝の ALT による校内放送

朝、始業前に ALT が校内放送を行っている。その日の出来事を話したり、児童が元気に過ごせるような言葉をかけたりしている。日常的にネイティブの英語をシャワーのように浴びることで、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができると考える。

(2) 英語コーナー掲示

ハロウィンやクリスマスの時期に、児童が英語コーナーの箱に名刺を入れたり、手作りのオーナメントを各クラスで作ってクリスマスツリーを飾ったりするなど、外国の文化や行事を盛り上げた。

4 成果と課題

(1) 成果

クイズや対戦形式の活動を多く取り入れることで、多くの児童が意欲的に取り組むことができた。また、グループで助け合うことで、基本的な単語や会話表現が児童から自然と出てきている。ALT とも積極的に英語でコミュニケーションを図る姿が見られた。

(2) 課題

保護者アンケートから、外国語活動の授業を参観したいと考えている保護者が多いことが分かった。授業参観日や学校公開日に外国語活動の授業を行うことによって、授業の内容や実態を知らせる機会をもち、保護者の関心をさらに高めていきたい。

また、授業で身に付いた力の活用を図れるよう、発表の場を設けていきたい。